

スケジュール、その他の制約：

原則として週1回、4～5回で11月末までにまとめる。

特別委開催日：10月27日／11月6日／11月12日／11月17日／11月30日。

中核となる重点的な対象部分：（近似のものを同列に再編成）

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 目標の一本化 | 4. 日本の危機状況の打破 |
| 2. 運動の個性の差別化 | 3. 運動の知名度の向上 |
| 4. 政権交代 | 6. 同志議員をふやす |

その他の考慮したい特記事項：

1. 当委員会の結論は、会の活動として実行可能な具体性を有すること。
2. 具体化に先立ち、会員の意見を仰ぎ、合意を得ること。

[4] 目的の系列化（括弧内討議経過）

- P-0 目標を一本化する。
- P-1 まず実現目標を一本化する。（目標と一本化のどちらを選ぶか、又ゴールか行動目標かでもめたが、一応ゴールを先にすることとした。）
- P-2 目標とする「良い国」のイメージを確立する。（良い国の中身が最後最後まで問題。）
- P-3 目標を実現する方策を探索する。（方法論を幾つか並べて比較検討）
- P-4 運動方針を明確化する。（実現可能性を議論したが当然の事とし、名称等を含める）
- P-5 現会員の運動方針に係わる意思統一をする。（P-3からP-7までの間を細かくうめる。）
- P-6 現会員の力を結集する。（同上）
- P-7 市民の参画意識を喚起する。（運動方針に対して、関心ある市民に呼びかける。）
- P-8 将来に繋がる若手に共感の輪を広げる。（無関心な若者層に対して核をつくる。）
- P-9 無関心な一般市民の政治参画への意識改革を図る。（意図を明確に表現する。）
- P-10 更に活動の拡大・活発化をはかるため、組織・運営を改革する。（前後の順序を逆にし、批判をさける。又ネーミング等も含める。）
- P-11 活動会員を10,000人以上とし、選挙に強い影響力を持つ。（具体的人数を入れ、圧力団体という名称のマイナスイメージを避ける。）
- P-12 会として全国展開をはかる。（東京の実績を全国に及ぼす。）
- P-13 運動方針で協調できる他の団体とネットワーク化する。（選挙の影響力を更に増す。）
- P-14 平成維新を目指す国会議員を過半数とする。（平成維新とは良い国を実現すること。）
- P-15 政権を獲得し、地方分権、規制撤廃、小さな政府等の主要政策を実現する。
- P-16 経済を活性化して日本の危機的状況を打開する。（長期的に小児化問題も含める。）
- P-17 生活者主権を実現する。

P-18 生活者が真面目に働けば、老後も物心両面で豊かな生活が送れるようにする。

P-19 世界に尊敬される「良い国」を実現する。

[5] 目的の除去（WD手順 3-(1)）（目的を部分的でも不要にする方法・状況を考え出す）

目的の水準としたP-18を不要とするアイディアを発言順に以下列挙する。

- * 政・官・業の癒着を打破する。（政治・行政を一部産業から生活者に目を向けさせる）
- * 民主主義を徹底する。（主権者を中心とする原則を実現する）
- * 国家・地方公務員を半減する。（邪魔者を除き、不要な規制を撤廃し行政をスリム化する）
- * 規制をゼロ・ベースで見直す。（法律も同様、できる限り不要なものを撤廃する）
- * 生活者党を立ち上げる。（生活者中心の政党を立ち上げて政権をとらせて改革する）
- * 日本を10に分割する。（道州制にして、中央は国防と外務中心とする）
- * 憲法を改正する。（理解の上決めたら守る。状況が変われば変える、勝手な解釈をしない）
- * 法治国家の徹底。（いい加減な解釈や裁量の余地をなくす）
- * 司法の強化。（外国人も活用して司法を強化し、三権分立のバランスをとる）
- * 国民投票制度を取り入れる。（重要な問題は議会の取引ではなく、国民の意思を問う）
- * 公務員制度を考え直す。（グローバルな時代環境からずれすぎている、民間との交流も）
- * 公正取引委員会を強化する。（談合を排除し、価格を低下し、利権を排除する）
- * 移民を促進する。（必要な者を入れ、日本の非合理的価値観を正すのを促進する）
- * 投票を義務づけて投票率を上げる。（投票率が上がれば世の中変わる、白票を認める）
- * 投書作戦でマスコミを洗脳する。（マスコミの権力との癒着を正し、味方につける）
- * 政権交代させる。（今のままの利権政党では駄目であろう）
- * 革命を起こす。（日本の真似をしているタイは2年ごとクーデターで不正を正している）

[6] おわりに

今後第4回は11月17日、第5回は11月30日に開催して何とか実行システムまで漕ぎ着けたいと思っている。一方手法の方は経験によりマスターし、今後特に指導者がいなくても適用できるようになると期待している。又本を読んだり、講義を聞いただけではよく理解できなかったが、実際にやってみるといろいろと考えさせられることが多く、今後種々の場合に応用がきく大変有意義な経験になるような気がする。生活者通信が発行される頃にはある程度の結論が出て、正式に会員の意見を伺う段階になると思われるが、編集者の要望もあり、敢えて中間報告を公表し、途中の段階でも会員の意見を伺うこととした次第である。。